

令和 3 年度

長期研修者研究抄録



鹿児島県総合教育センター

令和３年度長期研修者研究主題一覧

番号	所 属 校	氏 名	研 究 主 題
1	鹿児島市立南方小学校	池澤 麻衣子	主体的に健康課題の解決を図ろうとする児童を育む保健教育 －ESDの視点を取り入れた「保健教育推進シート」の作成・活用を通して－
2	鹿児島市立広木小学校	横手 優子	「外国語で自分の考えや気持ちをもっと伝えたい」と学び続ける児童の育成を目指して －内発的動機を高める学習方法の工夫と児童の実態に合わせた「CLIL」に基づく授業を通して－
3	鹿児島市立犬迫小学校	外 崇広	主体的に自己の生き方についての考えを深める児童を育成する道徳科の授業の在り方 －教材と児童の生活を結び付ける指導の工夫を通して－
4	薩摩川内市立手打小学校	中村 好太郎	複式学級において合意形成を目指す学習指導 －第５・６学年社会科における問いの工夫や議論の工夫を手立てとして－
5	始良市立始良小学校	吉海 直	「なぜ学ぶのか」が分かり「になりたい自分」に向けて学習に取り組む児童の姿を目指して －自閉症・情緒障害通級指導教室の自立活動の取組－
6	鹿屋市立寿北小学校	岩崎 直広	児童が生きて働く知識及び技能を習得する算数科学習指導 －学習過程と認知特性を踏まえた指導の工夫を通して－
7	曾於市立岩北小学校	室屋 真紀	「自分の考え」をもって書くことができる子供の育成 －「読むこと」から「書くこと」の指導を通して－
8	さつま町立宮之城中学校	北山 遥	自己理解を深め、課題に気付き解決する生徒の育成 －知的障害特別支援学級における自立活動の実践を通して－
9	県立出水工業高等学校	小田 譲二	「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して －ＩＣＴとチェックリストの効果的な活用－

番 号	教科等	氏 名	勤務校	研 究 主 題	研 究 内 容
1	健康教育	池澤 麻衣子	鹿児島市立南方小学校	主体的に健康課題の解決を図ろうとする児童を育む保健教育 ーESDの視点を取り入れた「保健教育推進シート」の作成・活用を通してー	本研究は、ESDの視点を取り入れた「保健教育推進シート」の作成・活用を通して、主体的に健康課題の解決を図ろうとする児童を育む保健教育の推進を目指した研究である。 具体的には、保健教育の進め方やESDについて研究を深め、学校における保健教育の具現化を図った。また、実態調査を基に、保健教育で育成を目指す資質・能力や子供像を明確にし、主体的に健康課題の解決を図ろうとする児童を育むための「保健教育推進シート」を学校全体で作成・活用する中で、指導と評価の具体化を図った。 その結果、学校全体で学びのつながりを意識した保健教育を推進することができた。また、振り返りシート「健康名人への道」の児童の記述では、問題解決的な学習を通して、健康課題を自分事として捉えたり、日常生活で実践しようとしたりする姿が見られた。
2	外国語	横手 優子	鹿児島市立広木小学校	「外国語で自分の考えや気持ちをもっと伝えたい」と学び続ける児童の育成を目指して ー内発的動機を高める学習方法の工夫と児童の実態に合わせた「CLIL」に基づく授業を通してー	本研究は、内発的動機を高める学習方法の工夫と児童の実態に合わせた「CLIL」に基づく授業を通して、「外国語で自分の考えや気持ちをもっと伝えたい」と学び続ける児童の育成を目指した研究である。 外国語学習に取り組む児童の育成には「もっと英語でコミュニケーションしたい。」と児童が思えるような内発的動機が大切である。内発的動機付けの研究者であるエドワード・L・デシの理論を基に自律性、関係性、有能感の三要素から手立てを設定した。また、内発的動機が高まった児童が、英語を活用できる場が必要となることから、体験的に英語を活用する中で知識・技能を身に付け、英語でのコミュニケーションに自信をつけられる「CLIL」に基づいた授業づくりに取り組んだ。 本研究を通して、「ALTとの英語でのコミュニケーションが楽しかった。」「英語でコミュニケーションできた。」「もっとコミュニケーションしたい。」と思う児童の姿が見られるようになった。
3	道徳	外 崇広	鹿児島市立犬迫小学校	主体的に自己の生き方についての考えを深める児童を育成する道徳科の授業の在り方 ー教材と児童の生活を結び付ける指導の工夫を通してー	本研究は、教材と児童の生活を結び付ける指導の工夫を通して、主体的に自己の生き方についての考えを深める児童を育成する道徳科の授業の在り方について研究を進めたものである。 よりよく生きたいと願う児童が、道徳科の授業において学んだことを自分事として捉えるためには、「問題意識の焦点化」、「望ましい姿の探求」、「道徳的価値の主体的な自覚」といった学びの姿を実現することが大切であると考え、これらを授業づくりの視点として指導の工夫を行った。具体的には、複数時間の関連を図った指導を年間指導計画に取り入れ、1単位時間の学習指導過程においては、育成したい道徳性の諸様相を明確にした学習活動の設定を図った。 その結果、児童から「道徳の話を読んで考えると、この登場人物のようになって今の自分を越えたいと思うことが多かった。」といった振り返りの記述が見られるなど、自らの生き方に関わる問題意識をもって多面的・多角的に探求し、学んだ道徳的価値を主体的に自覚する姿が見られた。

番 号	教科等	氏 名	勤務校	研 究 主 題	研 究 内 容
4	へき地・複式教育	中村 好太郎	薩摩川内市立手打小学校	複式学級において合意形成を目指す学習指導 ー第5・6学年社会科における問いの工夫や議論の工夫を手立てとしてー	本研究は、複式学級において合意形成を目指す学習指導を実現するために、児童が自ら問いを設定することができる工夫や児童の合意形成を目指す議論の工夫に関する研究を行ったものである。 問いの工夫では、児童の問いを基にした学習過程の工夫と「社会的事象の見方・考え方」を働かせることができる問いの工夫の二つの視点を設けた。その結果、児童が自ら問いを設定し、進んで学習し自分の考えをもっている姿を実現することができた。また、議論の工夫では、自分の考えを強固・付加・修正・発見できる場の設定と議論を促すための教材・教具の工夫の二つの視点を設けた。その結果、議論の工夫を通して、よりよい解決方法について合意形成を目指す姿を実現することができた。 本研究を通して、複式学級において問いや議論を工夫することで、合意形成を目指す学習指導を明確にすることができた。
5	特別支援教育	吉海 直	始良市立始良小学校	「なぜ学ぶのか」が分かり「なりたい自分」に向けて学習に取り組む児童の姿を目指して ー自閉症・情緒障害通級指導教室の自立活動の取組ー	本研究は、自閉症・情緒障害通級指導教室における自立活動について研究したものである。 具体的には、通級による指導を受けている児童が「なぜ学ぶのか」を理解し、目標とする「なりたい自分」を具体的に考えて学習に取り組むために、児童の実態を的確に把握した上で個別の年間指導計画を作成し、1単位時間の指導過程の工夫を行った。また、学期ごとに年間指導計画の見直しをしていくことで、児童の必要性が高まったり意欲が継続していったりする学習内容を設定することができた。 本研究を通して、通級指導教室における自立活動の充実を図るには、複数の教師により多面的に実態把握を行い、指導すべき中心的な課題を抽出した上で指導目標を設定することが重要であることが分かった。また、中心的な課題を基に、年間指導計画と1単位時間の指導過程を工夫することで、児童が「なぜ学ぶのか」を理解して、「なりたい自分」へ向けて学習しようとする姿へとつながった。
6	算数	岩崎 直広	鹿屋市立寿北小学校	児童が生きて働く知識及び技能を習得する算数科学習指導 ー学習過程と認知特性を踏まえた指導の工夫を通してー	本研究は、学習過程と認知特性を踏まえた指導の工夫を通して、児童が算数科における生きて働く知識及び技能を習得することを目指した研究である。 学習過程の工夫では、「自ら問いや解決の見通しをもつ過程」、「自ら学習を調整しながら新しい知識及び技能を見だし、それを活用する過程」、「自ら『数学的な見方・考え方を働かせ、新しい知識及び技能を習得する過程』に気付く過程」という三つの過程を工夫し、この一連の流れを繰り返す行うことで、算数科における生きて働く知識及び技能を習得することができると考えた。 また、認知特性を踏まえた指導の工夫では、学習に滞りやつまずきが見られた児童に対して、視覚優位、言語優位、聴覚優位といった児童一人一人の認知特性を調べ、それを基に指導方法を工夫した。 本研究を通して、既得の知識及び技能を振り返って新しい算数の問題に活用して解決したり、「数学的な見方・考え方を働かせ、新しい知識及び技能の習得する過程」に気付いたりする児童の姿が多く見られるようになった。

番 号	教 科 等	氏 名	勤 務 校	研 究 主 題	研 究 内 容
7	国語	室屋 真紀	曾於市立岩北小学校	「自分の考え」をもって書くことができる子供の育成 ー「読むこと」から「書くこと」の指導を通してー	本研究は、「自分の考え」をもって書くことができる子供の育成について、「読むこと」から「書くこと」の学習の流れに着目した研究である。 具体的には、子供の「課題意識」に着目し、単元及び1単位時間を通して、子供が「課題意識をもつ」、「課題意識を持続する」、「課題意識に対して振り返る」という一連の流れを繰り返す事ができるようにした。その際単元では七つ、1単位時間においては、五つの視点に基づいて手立てを講じた。 その結果、読みながら「自分の考え」をもち、「自分の考え」を相手に分かりやすく伝えることができる子供の姿につながったと考える。 本研究を通して、子供が「自分の考え」をもって書くことができるようになるための基本的な考え方や授業改善の有効性を明らかにすることができた。
8	特別支援教育	北山 遥	さつま町立宮之城中学校	自己理解を深め、課題に気付き解決する生徒の育成 ー知的障害特別支援学級における自立活動の実践を通してー	本研究は、知的障害特別支援学級における自立活動の授業実践を通して、自己理解を深め、課題に気付き解決する生徒の育成を目指した研究である。 知的障害のある子供は自己理解における特性により、自分を客観的に見ることが十分にできないことから自己理解を深めるためには、指導・支援が必要である。 そこで、実態調査の分析を基に、集団で取り組む自立活動において、生徒同士の共通する課題を中心に扱いながら、活動内容と個別の課題との関連付けを行い必要な手立てを講じたり、個別の課題に対する取組を考えたりして授業を実施した。そして、知的障害のある児童生徒の学習上の特性を踏まえ、具体的な目標や判断基準を設定した振り返りシートを活用した自己の振り返りに取り組んだ。 本研究を通して、生徒が自分のことについて考えたり、自己を客観的に見ようとしたりする姿が見られるようになった。また、担任同士が生徒の情報を共有し、適切な指導・支援をしていくことにもつながった。このことから、本研究における取組が、自己理解を深めることにつながっていくことを明らかにすることができた。
9	工業	小田 譲二	県立出水工業高等学校	「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して ーICTとチェックリストの効果的な活用ー	本研究は、「主体的・対話的で深い学び」の実現のため、生徒が問題解決の見通しをもち、自分の考えを表現することを通して協働的に活動する授業改善が必要であることから、ICTとチェックリストを効果的に活用することで、生徒がこれまでに学んだことを本時の学びと結び付け、生徒同士で協働して学習を進めていくことができるようになることを考え、研究を行ったものである。 具体的には、生徒が生徒同士、または教師との間で考えを整理・共有し、生徒が自らの力で考えをまとめることができるようにするため、授業支援システムやプレゼンテーションソフトの活用を図った。また、生徒が問題解決の見通しをもちやすくするため、必要な知識を見だし、その知識のどの部分が問題解決につながるのかを効率よく思考できるようにチェックリストを作成し、これを基に思考を整理する学習活動場面を設定した授業実践を行い、検証・考察した。 本研究を通して、課題解決に向けて、自分の考えを整理しながら協働してグループの考えを形成し適切な方法で表現するなど、「主体的・対話的で深い学び」につながる授業改善ができた。